永久保証：恵みによる必然的結果

もしキリストを心から信じて、しかも救いを失わないようにするには、神の規律を守らなければならないとしたらどうでしょう。

	はい	いいえ
確かに自分は永遠の命は恵みによって与えられたと言えますか。	❑	❑
あるいは、		
自分の救いは、神の規律を守るか守らないかによる。	❑	❑

したがって、もしだれか聖書の教える永久保証を頭から否定する者がいたら、その人はいったい恵みによって神に接するのでしょうか、あるいは規律を守り通すことによってなのでしょうか。

(答)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

だれかこのようにして罪をゆるされた(救われた)人がいますか(小冊子14―15ページ参照)。

(答)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

聖書によると、人はどのようにして罪をゆるされるのでしょうか(ローマ人3:28によると)。

(答)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

聖書の別の箇所で、イエスは次のように言っています。

> **「わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っており、彼らはわたしについて来ます。わたしは彼らに永遠の命を与えます。だから彼らは決して滅びることがなく、まただれもわたしの手から彼らを奪い取ることはできません。わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大な方です。そしてだれもわたしの父の御手から、彼らを奪い取ることはできません。」 (ヨハネ伝10章27―29節)**

この聖句に、イエスはどのような命を与えると言っているのでしょうか。

❑ 一時的　❑ 条件付の(暫定的)　❑ 永遠の

もしイエスが言うように永遠であるなら、どこかで失うのでしょうか。

(答)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

この同じ聖句で、イエスはいったいだれがすべてにまさって偉大だと言っているのですか。

(答)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

いったい神のみ手から奪い取ることができる者がいるでしょうか。

(答)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

自分は神より偉大だと思いますか。

(答)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

この聖句に照らし合わせて考えると、すでに、キリストを救い主と信じてから、自分のなかにまだ許されないで神の永遠の怒の対照となる罪の何かが残っていると思いますか。

(答)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(他の永久保証の聖句、ローマ人8:37-39、エペソ人1:13-14、ヨハネ伝6:37-40、ヘブル人13:5)

それでは罪を気にしないでおかし続けるのですか。

いかなる罪も、一度心から信じた者から永遠の命を奪い取ることはできませんが、罪をおかし続ける結末は、この世においても来たる世においても明らかに破壊的です。

第一に、罪の因果というものがあります。たとえば、大酒飲みは病気になって死ぬかもしれません。あるいは、泥酔運転で交通事故をおこして人を巻添えにするかもしれません。あるいは、不道徳な性行為によってエイズに感染し、死ぬかもしれません。キリストを救い主として受け入れることによって地獄から救われるかもしれませんが、罪のおろかさの結果を刈り取らなくてすむという保証はありません(ガラテヤ人6:7-8、ヤコブ2:14-17)。

第二に、罪は来たる世にも影響します。これはちょうどスポーツ観戦の無料キップをもらった時のように、競技場に入場するのは保証されています。しかし、前列の席か、後列の席かまでは保証されていません。これと同じように、イエス・キリストを信じる信仰によって永遠の命を与えられた者は天国の道を保証されています。しかし、天国において高揚されるかどうかまで保証されていません。天国における位置付けは、わたしたちが平素行なっているこの世での行為が神のみ心にかなうかどうか、その度合によって決まるのです(第1コリント人3:11-17、9:24-27、第2コリント人5:10-11)。この世での罪の快楽は、後の世での天の報いを待つことよりも、しばしば魅力的な力があります。み言葉は、神から与えられた特権(天での報い)を、この世の一時的な罪の快楽のためにないがしろにする者は、悔い改めが先に立たないと教えています(ヘブル人12:14-17、ルカ伝19:11-27、マタイ伝25:14-30)。